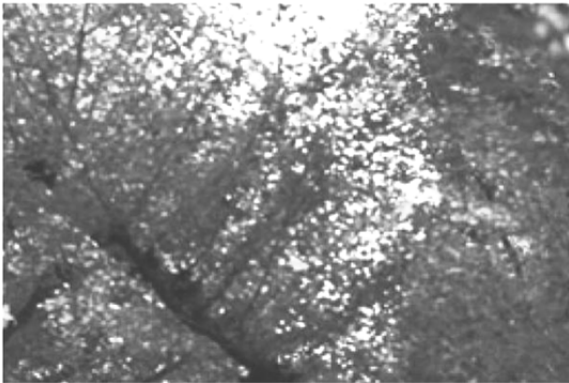




2013



UNGL 活動実績



作成元：西日本学生リーダーズ・スクール（UNGL）事務局
ungl@stu.ehime-u.ac.jp 089-927-8922

事業概要

● 大学間連携共同教育推進事業とは

国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、達成目標が明確で高い成果が見込まれる取組を選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的として、平成 24 年度から文部科学省が開始した事業です。

● 取組名称

西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（英語名称：University Network for Global Leadership Development in West Japan）

● 連携の種類

地域連携

● 事業期間

平成 24 年度～平成 28 年度（5 年間）

● 連携校

愛媛大学（代表校）・山口大学・香川大学・佐賀大学・京都外国語大学・京都文教大学・広島経済大学・松山大学・九州国際大学・京都外国語短期大学

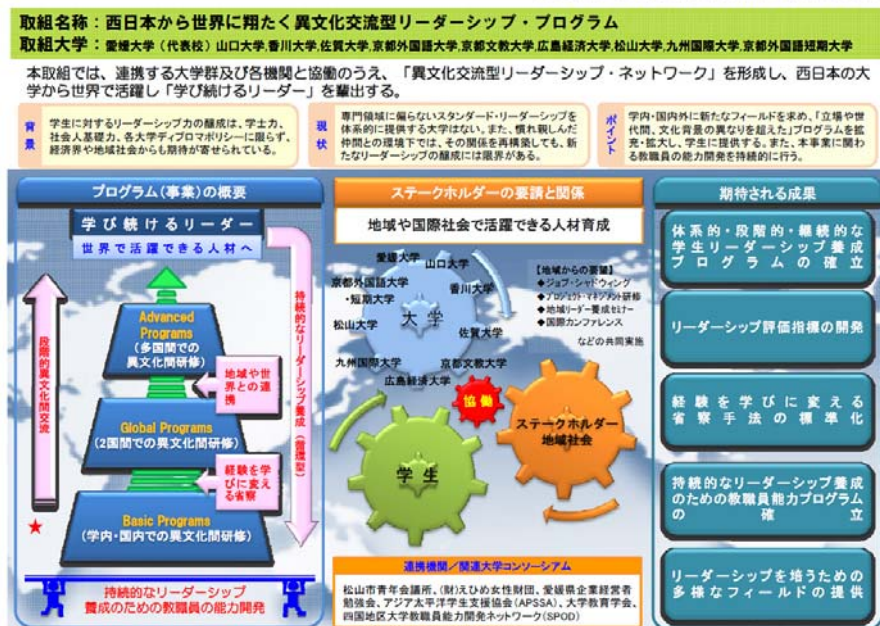
● 協力校※

熊本学園大学・京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部・愛知みずほ大学・愛知みずほ大学短期大学部・追手門学院大学

● 連携機関

松山市青年会議所・財団法人えひめ女性財団・愛媛県企業経営者勉強会（理解ラボ）・アジア太平洋学生支援協会（APSSA）・大学教育学会

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組



※連携校協働会議において連携することが望ましいと判断した大学等について、文部科学省の承認を得るまでの期間「協力校」としている。

平成 25 年度の取組とその参加者数

レベル	日程	プログラム名	担当大学	学生		学生スタッフ		教職員		その他		総数
				連携校	連携校外	連携校	連携校外	連携校	連携校外	一般	学生	
Basic Programs (国内)	H25 年 6 月 22 日	大人としゃべり場	九州国際 大学	21	0	0	0	6	0	169	197	393
	H25 年 6 月 22 日	ファシリテーション道場	九州国際 大学	19	8	0	0	5	0	4	0	36
	H25 年 6 月 22 日 ～8 月 3 日	まつやま「キズナ」プロジェクト ～大切な人へ～	愛媛大学 松山大学	7	0	0	0	2	0	0	0	9
	H25 年 7 月 10 日	会議ファシリテーション入門セミナー	松山大学	26	0	0	0	11	0	0	0	37
	H25 年 8 月 6 日 ～8 月 7 日	香川大学リーダーシップ養成研修	香川大学	9	0	0	0	4	0	0	0	13
	H25 年 8 月 7 日 ～8 月 9 日	FM 高松 学生レポーターチャレンジ プログラム	香川大学	5	0	0	0	4	0	0	0	9
	H25 年 8 月 ～H26 年 2 月 (全 12 回)	英語で学ぶ異文化リテラシー養成講座	松山大学	114	15	0	0	12	0	0	0	141
	H25 年 8 月 20 日 ～8 月 22 日	「小学生スポーツ体験ウィーク」で学ぶ コーチングと危機管理	京都外国 語大学	9	0	0	0	9	0	0	0	18
	H25 年 9 月 9 日 ～9 月 11 日	学生リーダーズ・サマースクール (開催地:愛媛県中島)	愛媛大学	42	15	14	0	14	3	0	0	88
	H25 年 9 月 28 日	瀬戸内国際芸術祭 香川大学プロジェクト 「粟島国際交流プロジェクト」	香川大学	8	0	0	0	4	0	0	0	12
H25 年 12 月 7 日 ～12 月 8 日	学生 FD の WA!!!! 「プロジェクト・アドベンチャー」 (開催地:大阪)	追手門学 院大学 京都文教 大学	31	34	0	0	6	3	0	0	95	

レベル	日程	プログラム名	担当大学	学生		学生スタッフ		教職員		その他		総数
				連携校	連携校外	連携校	連携校外	連携校	連携校外	一般	学生	
Basic Programs (国内)	H25 年 12 月 7 日 ～12 月 8 日	一学一山運動フォーラム 2013 ～つながりが森を守る力になる～	広島経済 大学	12	19	0	0	6	3	0	0	40
	H25 年 10 月 ～H26 年 1 月 (全 5 回)	グローバル・リーダーシップ・セミナー	京都外国 語大学	192	14	0	0	28	8	1	0	243
	H26 年 2 月 8 日 ～2 月 9 日	ソーシャルアントレプレナー実践学入門 プログラム	山口大学	16	4	0	0	5	0	0	0	25
	H26 年 2 月 11 日 ～2 月 12 日	コミュニケーション力向上ワークショップ	香川大学	4	0	0	0	14	0	0	0	18
	H26 年 2 月 11 日 ～2 月 13 日	災害対策型 サバイバル・キャンプ KITAKYUSHU Emergency Drill (KED) (開催地:北九州)	九州国際 大学	16	0	19	0	8	0	1	0	44
	H26 年 2 月 13 日	異文化間リーダーシップ・ワークショップ (開催地:京都外国語大学)	京都外国 語大学	30	0	0	0	0	0	0	0	30
	H26 年 2 月 18 日 ～2 月 19 日	佐賀大学プロジェクト・アドベンチャー・ ワークショップ 「アドベンチャーに飛び出そう！」	佐賀大学	162	0	0	0	6	0	0	0	168
	H26 年 3 月 22 日 ～3 月 23 日	リーダーシップ研修 in 京都 ～もし世界が 100 人の村だったら～	京都外国 語大学	32	2	19	0	6	0	0	0	59
Global Programs (2 国間)	H25 年 9 月 15 日 ～9 月 21 日	第 1 回リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (開催地:サイパン諸島の 10 小学校)	愛媛大学	51	7	4	0	11	1	1	0	75
	H26 年 2 月 23 日 ～3 月 1 日	第 2 回リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (開催地:サイパン諸島の 10 小学校)	愛媛大学	94	31	6	1	9	4	0	0	145
	H26 年 3 月 2 日 ～3 月 19 日	ハワイ・サービスラーニング・プログラム	松山大学	14	0	0	0	2	0	0	0	16

レベル	日程	プログラム名	担当大学	学生		学生スタッフ		教職員		その他		総数
				連携校	連携校外	連携校	連携校外	連携校	連携校外	一般	学生	
Global Programs (2 国間)	H26 年 3 月 11 日 ～3 月 16 日	第 2 回リーダーシップ・チャレンジ in 韓国(開催大学:南ソウル大学)	愛媛大学	32	8	0	0	5	1	0	0	46
Advanced Programs (多国間)	H25 年 8 月 18 日 ～8 月 25 日	リーダーシップ・チャレンジ in 台湾 (開催大学:国立高雄第一科技大学)	愛媛大学	12	0	0	0	4	0	0	0	16
学生リーダーシップ・カンファレンス	H25 年 12 月 14 日	第 2 回学生リーダーズ・カンファレンス in 京都外国語大学	京都外国語大学	157	12	0	0	31	10	4	0	214
学生リーダーシップ・カンファレンス	H25 年 12 月 15 日	第 2 回学生リーダーズ・カンファレンス in 京都外国語大学ワークショップ 「五感で学びあう”グローバル”多様な文化を知ろう」	京都外国語大学	119	0	0	0	17	1	0	0	137
				1234	169	62	1	229	54	181	197	2127

活動実績報告目次

目次

活動実績報告目次.....	5
「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国」	6
「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (夏)」	12
「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (春)」	21
「学生リーダーズ・サマースクール」	27
「リーダーシップ・チャレンジ in 台湾」	32

U N G L 活動実績報告

プログラム名	Global Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国」																																									
実施日	平成 26 年 3 月 11 日 (火) ~ 16 日 (日)																																									
実施先	韓国・南ソウル大学、国立農水産大学等																																									
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>松山短期大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生	愛媛大学	2	2	松山大学		9	松山短期大学		1	香川大学		2	山口大学	1	4	追手門学院大学	1	6	広島経済大学	1	7	九州国際大学	1	2	京都文教大学		3	京都外国語大学		2	京都光華女子大学		2	合計	6	40
大学名	教職員	学生																																								
愛媛大学	2	2																																								
松山大学		9																																								
松山短期大学		1																																								
香川大学		2																																								
山口大学	1	4																																								
追手門学院大学	1	6																																								
広島経済大学	1	7																																								
九州国際大学	1	2																																								
京都文教大学		3																																								
京都外国語大学		2																																								
京都光華女子大学		2																																								
合計	6	40																																								
完了報告	<p>韓国研修の主な構成は参加学生によるプレゼンテーションとホームステイであり、その都度振り返りの機会を学生に与えながら、リーダーシップ研修を実施した。</p> <p>プレゼンテーションにおいては、1 日目は完成度が低いものが目立ったが、振り返りを重ね、最終日には精度の高いものとなっており、挑戦することへの手応えを感じる学生は多かったようである。</p> <p>ホームステイでは、各家庭の事情は異なり、感想も一律ではないが、韓国人学生並びにその家族・友人との親睦をより深めることになった。</p> <p>全体として、事故や体調不良を訴える者もなく、リーダーシップ・プログラムとして、充実した研修を終えることができた。</p>																																									
<p>【プログラム到達目標】</p> <p>Global Programs の一つとして、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での協同活動を通してリーダーシップ (スキル・知識・態度) を身につけることを目的としている。特に本プログラムでは、参加学生が韓国人学生に対してセミナーを実施し、ホームステイを体験することで、自律性や社会性を養うことを到達目標とした。</p> <p>【プログラム概要】</p> <p>本プログラムは Global Programs に位置づけられる海外研修である。参加学生はプレゼンテーション、ホームステイ、世界遺産訪問等をとおして、韓国文化への理解を深めるとともに、国際交流を念頭においたリーダーシップ力、チームワーク力、プレゼン力、異文化適応能力等の研鑽を積んだ。</p> <p>【プログラム内容】</p> <p>3 月 11 日 (火)</p> <p>●移動 (仁川空港~南ソウル大学) (写真①)</p> <p>時間： 20 : 00 ~ 22 : 50</p>																																										

参加スタッフ： 山中・中山・小江・樋口・松岡（敬称略）

〈内容〉

引率スタッフ 5 名、参加学生 40 名全員が現地（韓国・仁川空港）集合し、南ソウル大学まで、バス移動した。途中、南ソウル大学の安秉杰先生と合流し、夕食をとる。南ソウル大学到着後は、全員同大学ゲストハウスに宿泊した。



写真① 夕食の様子

●スタッフ・ミーティング

時間： 23：00～24：00

場所： 南ソウル大学ゲストハウス

参加スタッフ： 山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

スタッフ間で、翌日以降のプログラムについて確認し、振り返りなどの指導について打ち合わせした。

3月12日（水）

●学生セミナー実施（写真②、③）

時間： 10：00～12：50、14：00～17：50

場所： 南ソウル大学（本館 L103 セミナー室、5号館授業行動分析室）

参加スタッフ： 山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

2会場に分かれて、11大学、計14チームがそれぞれ50分間のプレゼンテーションを実施した。セミナーに参加した韓国人学生はある程度、日本語を理解することができ、グループワークを行うにあたって、特別な問題はなく、活発な議論が行われた。

各テーマは愛媛大学・松山大学・松山短期大学の「日本学生の私生活と方言」「恋愛について」「日本のファッションについて」「音楽業界や受験制度から競争社会を比較する」、香川大学の「流行の言葉でわかる日本文化」、山口大学の「ツナガレ！フォーチュンクッキー」、京都光華女子大学の「京都の世界遺産と着物について」、追手門学院大学の「日本と韓国のアイドルについて」「大阪について」、広島経済大学の「日本のファッションについて」「日本のアイドルについて」、九州国際大学の「日本と韓国のマナーの違い」、京都文教大学の「日本と韓国の民族衣装の違い」、京都外国語大学の「震災について考えてみよう」である。



写真② プレゼンの様子



写真③ プレゼン中、グループワークの様子

●セミナーの振り返り

時間：18：00～19：00

場所：南ソウル大学（本館 L103 セミナー室）

参加スタッフ： 山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

会場別、二手に分かれて振り返りを行った。本館発表チームの振り返り指導は、山中・樋口・松岡が、5号館発表チームは中山・小江が担当した。振り返りは、プレゼンテーションのほか、チーム内におけるリーダーシップ、チームワークなどについて話し合わせ、翌日のセミナーに反省が活かせるよう、指導が行われた。

3月13日（木）

●学生セミナー実施

時間：10：00～12：50、14：00～17：50

場所：南ソウル大学（本館 L103 セミナー室、5号館授業行動分析室）

参加スタッフ： 山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

12日同様、14チームが同じテーマでプレゼンテーションを担当した。ただし、半分のチームは会場が入れ替わり、また参加する韓国留学生も日本語を少ししたしなむ程度であるなど、前日とは違う聴衆のなかで実施された。しかし、ほとんどのチームがそれにあわせて内容を作り変えてきており、前日の反省が多く活かされた発表がよく見られた。

●セミナーの振り返り（写真④、⑤）

時間：10：00～12：50、14：00～17：50、20：00～21：30

場所：南ソウル大学（本館 L103 セミナー室、5号館授業行動分析室）

参加スタッフ： 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

振り返りはチーム別振り返りと全体振り返り二種類実施された。

まず、チーム別振り返りはセミナーと同時進行で行われ、発表が終わったチームから順次、プレゼンテーションなど、研修に対する取り組みについて話し合われた。前日同様、本館発表チームは山中・樋口・松岡が、5号館発表チームは中山・小江が担当した。

20：00からは秦による総指揮のもと、本館にて全体振り返りが行われた。まず、学生全員を新たにシャッフル、グループ分けし、互いの発表やその取り組み、反省点などについて話し合わせた。チームや大学を越えた振り返りは結束力を高め、全員が国際交流のためのファシリテーターであることの自覚が促された。

それをもとに、翌日の3回目のセミナー発表に、6チームが選出された。



写真④ 全体振り返りの様子



写真⑤ 全体振り返りの様子

3月14日(金)

●国農水産大学キャンパス見学(写真⑥、⑦)

時間: 9:30~10:00

場所: 国農水産大学キャンパス

参加スタッフ: 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

国農水産大学キャンパス内のキノコ栽培施設、食用植物栽培施設を見学した。



写真⑥ 国農水産大学キャンパス見学



写真⑦ 農水産大学キャンパス見学

●学生セミナー実施(写真⑧、⑨)

時間: 10:00~12:50、13:00~13:50

場所: 国農水産大学キノコ科

参加スタッフ: 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

前日選出された6チームが日本語を学んだことがない国農水産大学キノコ科の大学生を対象に、2会場に分けて、セミナーを実施した。ただし、プレゼンテーションには南ソウル大学の学生がボランティアとして通訳を担当した。発表者は聴衆にあわせて、さらに内容を改変し、グループワークを簡素化することで、交流が円滑になるよう工夫していた。

短時間であったが、セミナーは滞りなく遂行され、日本人学生と韓国人学生の交流は活発に行われた。



写真⑧ プレゼンの様子



写真⑨ 国農水産大学前にて全体写真

●隆陵・健陵（世界遺産）、鐘路3街・雲岷宮見学（写真⑩、⑪）

時間：14：30～17：00

場所：隆陵・健陵、鐘路3街・雲岷宮

参加スタッフ： 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

世界遺産である隆陵・健陵、またバス移動後、その関連の歴史建造物である雲岷宮を見学した。両者とも朝鮮王朝第22代王・正祖にまつわる歴史遺産であり、韓国歴史ドラマ（「イサン：正祖大王」）が日本でも放送されていたこともあり、親しみをもって韓国の歴史を学んでいた。



写真⑩ 隆陵・健陵見学の様子



写真⑪ 鐘路3街・雲岷宮見学の様子

●ホームステイ（1日目）

時間：17：00～

面会場所： 鐘路3街・雲岷宮

〈内容〉

参加学生は鐘路3街・雲岷宮にて各自ホストファミリーと面会し、ホームステイ先に向かった。学生たちはホームステイをとおして、大学における交流だけでは得られない、より内側に踏み込んだ韓国文化に触れることができた。

3月15日（土）

●ホームステイ（2日目）

参加学生たちは引き続き、各ホームステイ先で韓国人の家族と交流した。

●教職員による振り返り

時間：10：00～14：00

場所：南ソウル大学・ゲストハウス

参加スタッフ： 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

研修全体をとおした、教職員自身の振り返りを行った。学生にとっての研修の意義をどう見出させるかということを念頭に、スタッフの振り返りの仕方、スタッフ間のチームワーク等について論じ合った。

3月16日(日)

●グループ別振り返り

時間：13:00～

場所：仁川空港

参加スタッフ： 秦・山中・中山・小江・樋口・松岡

〈内容〉

ホームステイを含めた研修全体の振り返りをチーム別に行い、韓国研修をとおして、何を学ぶことができたかコメントさせ、グループ内で話し合わせた。

●仁川空港にて解散（写真⑫）

各自、出発時間ごと韓国を発った。



写真⑫ 仁川空港にて見送りに来た韓国人学生と別れを惜しむ

[目次へ](#)

プログラム名	Global Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (夏)」																																																				
実施日	平成 25 年 9 月 12 日 (木) ～9 月 25 日 (水)																																																				
実施先	北マリアナ諸島連邦・Public School System (Northern Marianas High School, Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Elementary School, Kagman Elementary School, Garapan Elementary School, San Vicente Elementary School, Dandan Elementary School, Oleai Elementary School, William S. Reyes Elementary School, San Antonio Elementary School, Kobleville Elementary School)																																																				
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1(OG)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>松山短期大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>京都光華女子大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12</td> <td>5</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	3	2	17	松山大学	1		4	山口大学	1		8	香川大学	1		5	京都外国語大学	2	2	9	広島経済大学	1		3	九州国際大学	2		5	追手門学院大学	1		4	京都文教大学		1(OG)	1	松山短期大学			1	京都光華女子大学			1	合計	12	5	58
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																		
愛媛大学	3	2	17																																																		
松山大学	1		4																																																		
山口大学	1		8																																																		
香川大学	1		5																																																		
京都外国語大学	2	2	9																																																		
広島経済大学	1		3																																																		
九州国際大学	2		5																																																		
追手門学院大学	1		4																																																		
京都文教大学		1(OG)	1																																																		
松山短期大学			1																																																		
京都光華女子大学			1																																																		
合計	12	5	58																																																		
完了報告	本研修では、UNGL 事業 Global Programs の 1 つとして、英語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通してリーダーシップを身に付ける事を目的とした。特にサイパン研修では、サイパン現地の小学校で自分の得意分野を活かして教育実習を実施することや、ホームステイを体験することで自律性や社会性を養った。																																																				
<p>【プログラム内容】</p> <p>9月12日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備等のためのスタッフがサイパン空港に到着した。 <p>9月13日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイパン教育省との打合せ (10:30-12:00) <p>研修前の最終打合せがサイパン教育省 (Public School System) で行われた。出席者は教員 3 名の他、本研修の参加学生 (以下 Student Teacher* とする。) と受け入れ先の 10 の小学校の校長および副校長が出席していた。会議では、Garapan Elementary School の Ms. Paulette と、San Antonio Elementary School の Mr. James がファシリテートを行った。</p> <p>打ち合わせでは、まず、1 週間のスケジュールが確認された。</p> <p>(本研修の参加学生は、実習生として受け入れ先の小学校へ行くため Student Teacher と呼ばれていた。)</p> <p><9月15日></p> <p>マリアナ高校のカフェテリアにて</p> <ul style="list-style-type: none"> 16:00 : 日本人のみの結団式 17:00 : 同会場にてサイパン教育省主催の Welcome Party <p><9月16日></p> <ul style="list-style-type: none"> 7:15 : スクールバスによる送迎 到着後～14:30 : 授業のアシスタントおよび実習 																																																					

授業実習については、1日1コマのペースで各 Student Teacher に授業への参加をお願いすることとなった。この予定は、20日までということであった。

なお、校長側の意図として、Student Teacher にはサイパンの学校文化を知ってほしいというものがあった。そのため、授業には1名の Student Teacher が1クラスにつくのではなく、学年と越えて色々な学年の小学生にふれあう機会を設ける学校もあるとのことであった。Note taking も良い勉強になると思うのでぜひ勉強してほしい、という意見があった。



<9月18日>

夕方から、教育省近くのグラウンドにて、CNMI Football Association 主催のサッカークリニック (18:00~19:30) とサッカーの試合 (19:30~21:30)

<9月19日>

午前中は、スクールバスツアーの実施

Student Teacher 全員でサイパン島内の観光地 (suicide cliff , banzai cliff など) をめぐり、昼食は近くのビーチでバーベキューを実施

<9月20日>

日本人学生が中心となって Japan Festival を開催予定。

当日の夜は、Student Teacher が日本料理をふるまうことになっている。

<9月21日>

13:00 から Kanoa Resort で参加学生全員での全体ミーティング (振り返りと修了式) の実施

その他、事前打ち合わせの席では、受け入れ先の学校長等からの質疑応答が行われた。

9月14日 (土)

- ・小学校の場所確認 (10:00~15:00)
- ・Sun Palace Hotel とのミーティング (16:00~11:30)

教職員 4 名と、研修参加学生が宿泊する Sun Palace Hotel のオーナー (Ms. Sherlly) とコーディネーターの Kazu Nishida さんの 6 名で、打合せを行った。具体的には、研修参加学生の 15 日および 21 日 (その他該当学生は 13 日、14 日、22 日、23 日) の宿泊予定の確認および空港とホテル間の送迎手段と時間の確認を行った。16 日の朝は、各小学校からスクールバスで迎えにくることになっているため、学生全員がロビーに 6:45 に集合することになっていることを告げた。また、帰国の際のホテルから空港までの送迎については、航空機出発時間の 2 時間前にホテルロビーに学生が集合することになった。打合せ後は、最終振り返りの会場である Kanoa Resort の会場下見も行った。





・教職員ミーティング (19:30~20:30)

14 日までに到着した教職員スタッフのみで、15 日のスケジュール確認および役割分担を行った。15 日は、教員 1 名が学生到着確認のため、サイパン空港にて待機することを確認した。また、15 日到着予定の教職員スタッフについては、運転可能なスタッフで迎えに行くこと、その他スタッフについては時間を見つけて、担当の小学校の場所を確認することとした。緊急連絡先として携帯電話を 2 台レンタルしていたので、代表校の 2 名の教員がそれぞれ持つておくこととした。

9 月 15 日 (日)

教職員スタッフで現地小学校の場所確認をレンタカーで行った。実習先の小学校および担当教職員の割当は下記の通りであった。実習生の観察を多角的な視点で行うため、本研修では、複数の小学校を複数の教職員で、観察することとなった。各グループには、学生スタッフ 1 名もいる。

(1) 奥村、津曲 : Gregorio T. Camacho E. S., Tanapag E. S.

(2) 辻、中嶋、村田 : Garapan E. S., Oleai E. S.

(3) 秦、村上 : William S. Reyes E. S. San Antonio E. S.

(4) 山中、杉本 : Kagman E. S., San Vincente E. S.

(5) 岸岡、泉谷、鈴木 : Dandan E. S., Kobleville E. S.

・結団式準備 (15:00~15:45)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員で行う結団式の準備を行った。

・結団式 (16:00~17:00)

Marianas High School のカフェテリアにて、UNGL メンバー全員の結団式を行った。はじめに、結団式の開会あいさつを秦が行った。次に、本研修が始まった背景および研修意義 (心構え) について山中より説明が行われた。その後、研修の全体スケジュールについて津曲より説明を行い、各小学校の担当教職員紹介が行われた。次に、各小学校の実習生顔合わせのため、自己紹介と本研修への参加動機を各小学校グループで行った。最後に、本研修への意気込みとして、A4 用紙に「1 週間後になりたい自分」を書いてもらい、グループ内で、共有してもらい、研修中はチャレンジすることを意識して行動することを全員で確認した。結団式終了後、学生スタッフから Japan Festival についての情報提供が行われた。



・ Welcome party (17:00~19:00)

サイパン教育省主催のもと、Welcome party が行われた。会場には、サイパン知事の他、Rita Sablan (Commissioner, CNMI Public School System)、Herman T. Guerrero (Chairman, State Board of Education)、日野耕治氏 (在サイパン駐在官事務所長、領事) が来られ、それぞれ歓迎の挨拶をいただいた。パーティーには地元の新聞記者も訪れ、UNGL スタッフへインタビューが行われた (翌日、パーティーの様子やインタビューの内容が新聞記事として掲載された)。その後、各小学校の実習グループと実習先小学校の校長およびホストファミリーの対面式が行われた。実習先小学校の校長やホストファミリーと固い握手が交わされたり、歓迎の意味を込めた首飾り等が贈呈されたりした。会場でふるまわれたディナーを各グループで、楽しみながら、地元の高校生による歓迎のダンスを鑑賞した。

最後に、秦教授より、サイパン教育省および小学校校長、ホストファミリーに向けた御礼の挨拶が述べられた。

・ 教職員ミーティング (21:00~22:00)

教職員スタッフ全員によるミーティングが行われた。秦教授の指導のもと、1 週間の実習生観察のポイントおよび振り返りポイント等が共有された。観察のポイントとして、実習生 (student teacher) が積極的に子どもたちに関わっているかどうか、振り返りポイントとして、積極性を欠いた箇所について言及するよう伝えられた。また、本研修では教職員が多角的な観点に基づいて実習生を観察できるよう複数の人数で 2 つの小学校の実習観察を担当することになった。5 日間の実習をより多角的に観察できるようスケジュール等を各自で調整するよう求められた。



9 月 16 日 (月)

・ 実習生ホテル前集合 (6:45)

サンパレスホテルに宿泊していた研修参加実習生が、各小学校のスクールバスによる迎えを待ため、ホテルロビー前に集合した。担当教職員スタッフも集合し、担当グループの学生の様子を観察した。学生スタッフは、担当グループに Japan Festival についての追加の情報提供を行った。



・ スクールバスによるピックアップ (7:00~8:15)

各小学校から実習生を迎えるためにスクールバスがホテルロビーに到着した。7:00 から順次、迎えにきた。

・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

ここでは、筆者が担当した小学校 (Gregorio T. Camacho Elementary School) の事例を記述する。Gregorio T. Camacho Elementary School では、8:00 から授業が始まり、14:30 に終わるスケジュールであった。実習生たちは、授業アシスタントをしながら、サイパンの小学校の文化を学んだり、実際に授業を行うことで文化の違いや言葉の壁を乗り越えたりしながらサイ

パンの小学生たちと交流を深めた。実習生たちは、日本の文化（折り紙、漢字）を教える授業や、自身の得意な分野（サッカー、ダンスなど）を教える授業を行った。英語能力が高くない実習生の授業でも、言葉以外の領域で工夫をこらし、小学生を楽しませていた。ただし、初日ということもあり、実習生の戸惑いは非常に大きかった。事前の情報では、実習生 2 人 1 組で 1 つのクラスに入るようになっていたが、実際は 1 人 1 つのクラスの担任制となっていた。授業も 2 人 1 組で行う予定であったので、授業をするよう担任教員に求められた際に「2 人で準備してきたので対応できない」とパニックになり、教室を飛び出した実習生もいた。どんな環境にも適応できる力を身につけさせることの重要性を認識した瞬間であった。

・ Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

教育実習最終日の 20 日（金）に各小学校で開催する Japan Festival の準備を行った。Japan Festival は同じ小学校で実習している 6 名の実習生全員で企画・運営する 1 つのプログラムである。実習期間中に、授業後の午後の時間を使って、計画を練った。Gregorio T. Camacho Elementary School の Japan Festival では、ヨーヨー釣り、手裏剣体験、二人三脚、盆踊りをするようになった。

・ 振り返り (15:30~16:30)

小学校の図書室を使って、実習生全員による振り返りが行われた。まず初日の感想を言ってもらった。言葉が分からず、戸惑いや不安ばかりだったが、自分ができることを一生懸命少しずつ重ねて行きたいという感想が殆どであった。また、言葉が分からないことで、小学生にからかわれ、八方ふさがりになっている実習生もいた。これらの感想に対し、担当スタッフが①英語の問題として処理せず、自分にできることを少しでも多く見つけ、リーダーシップを発揮して、環境に適応してほしいこと、②たとえからわれたとしても、1 週間という時間が限られていることを意識し、時間を大切に使うしてほしいこと、③実習生が不安であることと同様に、現地小学校関係者（担任教員、ホストファミリーなど）も大きな不安を抱えて実習生を受け入れていることを伝え、1 週間を自分自身の貴重な経験として消化してほしいとフィードバックした。現地小学校のスタッフは校長も含め、16 時前後には帰宅する習慣があるとのことで、実習生を受け入れる 1 週間は、ホストファミリーとなっているスタッフは全員 16 時半に帰宅するようにすると申し合わせが交わされているということであった。そのため、この申し合わせに合わせ、Gregorio T. Camacho Elementary School の実習生は 16 時半までにすべての用事を済ませるようにした。

・ 教職員ミーティング (18:00~19:30)

10 の小学校に派遣された教職員スタッフが宿泊施設へ戻り、各小学校の実習生の様子を報告した。実習生の様子とそれに対する教職員スタッフの対応を共有し、スタッフの対応のあり方とそれに対する実習生の成長への影響について議論した。

9 月 17 日 (火)

・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~ 14:30)

2 日目の授業アシスタントが行われた実習生たちは、自分たちのできることを見つけながら、小学生に積極的に関わっていた。

・ Rotary Club 参加 (12:00~ 13:00)

サイパンの Rotary Club が Hyatt Regency で行われた。サイパン教育省の Rita Sablan に U N G L 代表者 3 名が招待された。この日は、Rita Sablan が①中学校・高校の教育システム改革と②日本からの教育実習生受け入れプログラム (U N G L 事業) についての講演を行った。このうち、②については、U N G L 事業の説明を秦教授が記者会見の 1 つとして行った。その後、地元の新聞記者によって教育実習初日の感想や Japan Festival の予告が秦教授に求められた。

・ 振り返り (14:30~ 15:00)

図書室で振り返りが行われた。前日と比較したときの自身の成長点と翌日の目標を決め、実

習生間で共有させた。

- ・ 小学校の教職員会議参加 (15:00~16:00)

毎週火曜日は、Gregorio T. Camacho Elementary School の教職員会議が行われている。実習生受け入れの週も行われ、この日は実習生もオブザーバーとして参加するよう求められた。まず、実習生を受け入れているクラスの担任教師より、実習生の実習の様子が報告された。実習生は全員、とても頑張っていて、小学生も非常に喜んでいることが報告された。英語の力に関わらず、文化の違いを乗り越えて楽しませることが可能であることを、実習生を通して学んだと何名かの教員が語っていた。

次に、Japan Festival の詳細について情報提供が求められた。この日はまだ、Japan Festival の開催についての情報提供ができなかった（詳細が練られていなかった）ため、小学校関係者に報告することができなかった。校長より、Japan Festival は、金曜午後の 14 時半までに終わらせてほしいとの希望が出された。最後に、Gregorio T. Camacho Elementary School のその他の情報共有が教職員間でなされた

- ・ Japan Festival 準備 (16:00~16:30)

Japan Festival 準備が行われた。この日は、2 人 3 脚で用いる水風船づくりに励んでいた。

- ・ 教職員 ミーティング (18:00~19:30)

各小学校の実習生の様子の報告がなされた。

9 月 18 日 (水)

- ・ 地元のラジオ生放送出演 (7:00~8:00)

KKMP ラジオステーションにて、PSS talk show に出演した。出演時間は 15 分程度であった。「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」の研修概要や、なぜ研修を始めるにいったか、などを秦教授が語った。インタビュアーはラジオ局の Mr. Gary 他、Garapan Elementary School の Paulette 校長であった。

- ・ 授業アシスタント・授業実習 (8:00~14:30)

授業アシスタントと授業実習が行われた。3 日目となり、実習生もサイパンの小学校文化に大方慣れてきたようで、あった。英語も積極的に使えるようになり、少しずつ自信をつけているように感じられた。



- ・ Japan Festival 準備 (14:30~15:30)

Japan Festival 準備が行われた。

- ・ 振り返り (15:30~ 16:30)

成長点と改善点 (翌日の目標) が共有された。

- ・ サッカークリニック (18:00~19:20)

CNMI サッカー協会主催のサッカークリニックが行われ、UNGL スタッフおよび参加を希望した実習生が参加した。得意なスポーツを武器にして実習生はサイパンの小学生や中学生との交流を図っていた。

- ・ CNMI ナショナルチームとのサッカー試合 (19:30~21:30)

サッカークリニックに続いて、ナショナルチームと UNGL チーム (参加希望実習生 15 名程度) とのサッカーの試合が行われた。試合には、UNGL 関係者はもちろん、ホストファミリーや小学校の関係者なども多く観戦に



集まっていた。試合は 2 - 6 で、惨敗ではあったものの、非常に興味深いプレーが続出した。試合序盤や中盤には、愛媛大学のダンス AZ チーム（全員本研修の参加実習生）がダンスを披露した。この様子は、翌日の地元の新聞に大きく取り上げられた。

10 月 19 日（木）

- ・スクールバスで教育省前に集合（8:45～9:00）

各小学校の実習生がスクールバスに乗って、教育省前に集合した。この日は、教育省および小学校主催のスクールバスツアーが開催されることになった。

- ・スクールバスツアー（9:00～ 11:30）

Suicide Cliff や Banzai Cliff など、サイパン島内のツアーが行われた。日本とサイパンの文化や歴史などに触れ、実習生は本研修の意義を改めて再確認したようであった。また、過去の歴史に触れることで、現在自分たちが生きていることそのものや、将来自分たちが日本人として何をすべきかについて再確認したとの報告も後にあがっていた。

- ・ランチ（11:30～12:00）

教育省が準備したランチを Minachom Atdao でとった。

- ・各小学校へ移動（12:00～12:15）

実習生はスクールバスで、各小学校へ移動した。

- ・Japan Festival 準備（12:15～16:30）

Japan Festival 準備が行われた。ヨーヨーづくりなどが行われたが、時間内に準備が終わらず、ホストファミリー宅へ持って帰り、ホストファミリーの助けを借りながら準備を進めていたようだ。

9 月 20 日（金）

- ・Japan Festival 準備（8:00～13:00）

Japan Festival の準備がカフェテリアにて行われていた。途中、授業実習に出る者もいた。授業実習では、実習最終日としてクラスの生徒たちからのサプライズもあったようだ。感動して涙する実習生も多かった。



- ・Japan Festival 開催（13:10～14:20）

Japan Festival が運動場で開催された。全校生徒および全教職員が参加した。まず、オープニングでは、実習生がハッピーを着用して、教育実習を受け入れてもらったことへの感謝と Japan Festival を楽しんでほしいとの挨拶があり、日本の言葉「わっしょい」をかけ声として皆で共有した。

全校生徒はヨーヨー釣りや手裏剣、二人三脚などを楽しんでいた。BGM として日本の音楽（三味線の音楽や和太鼓の音楽、盆踊りの歌など）が流れており、サイパンの子どもたちも楽しんでいた。また、ヨーヨーや手裏剣などは、全校生徒に 1 人 1 個ずつ渡され、非常に嬉しそうで

あった。Festival 終了後は、全校生徒全員で記念撮影をした。

1 週間の準備の成果が見事に実った Japan Festival であった。なお、この模様は別の小学校で、新聞記者によって大きく取り上げられ、翌週の新聞に掲載された。



・校長をまじえた振り返り (14:30～ 15:30)

教育実習最終日の振り返りは、校長をまじえて行われた。校長はまず、小学校に来てくれてありがとうという言葉と実習生が来てくれたおかげで小学生たちが非常に楽しそうであったし、文化交流の重要性を再認識できたとの報告が実習生に伝えられた。実習生たちの感想も求められ、実習生たちは次々に「英語ができなくて戸惑いばかりだったけれど小学校の皆さんが温かく受け入れてくれてとても助かった。この 1 週間は自分たちにとってかけがえのない時間だった」と語った。

9 月 21 日 (土)

・会場下見 (10:00～ 11:00)

午後開催の最終振り返りの会場である Kanoa Resort の Seaside Hall の下見を行い、ホテルロビーのスタッフの方と最終打合せを行った。振り返りに必要なもののうち、足りないものをホテルロビーのスタッフに交渉し、揃えてもらった。

・オプションツアー受付 (11:00～13:00)

22 日のオプションツアーの受付をパウパウツアーの担当の方に Kanoa Resort の入り口で行ってもらった。この対応の補助について。また受付補助につきながら、振り返り会場を訪れた実習生のメンタルサポートはもちろん、振り返り会場に実習生を連れてきたホストファミリーへの対応も行った。このとき、研修についてのホストファミリーの感想等もインタビューすることができた。

・会場設営 (13:00～ 14:30)

振り返り会場である Seaside Hall の設営を行った。PC とスクリーン、椅子の設置、音響整備等も行った。

・最終振り返り・修了式 (14:30～13:00)

振り返りが秦教授の指揮のもと行われた。まず、実習グループごとに 1 週間の振り返りが行われた。1 週間で自分自身が変わった点、今後目指して行きたい目標 (理想像) についての共有が行われた。次に、全体で集まり、本研修の意義が改めて再確認された。秦教授による研修のポイントと今後の成長に活用していくためのポイント等も共有された。

振り返り後、学生スタッフによって編集された動画および写真のスライドショーが行われ、修了証書が授与された。



・懇親会・修了パーティー (18:00~22:00)

CNMI サッカー協会会長の Jerry Tang 氏主催による懇親会および修了パーティーが行われた。このパーティーには、実習生および U N G L スタッフの他、各小学校の校長も招待された。懇親会中盤には、サイパン教育省より実習生と教職員スタッフ向けにプレゼントが贈呈された。プレゼントはサイパン教育省 T シャツや北マリアナ諸島連邦の歴史などが記された本、マグカップなどがあった。

9 月 22 日 (日)

・最終打合せ (10:00~11:30)

学生への個別インタビューを行うため、インタビュー項目の調整を行った。特に研修を通して感じたスタッフの所見等を活用しながらインタビュー項目の生成につとめた。

・学生への個別インタビュー (14:00~17:00)

ホテルに滞在中の学生へ、研修参加の感想をインタビューで聞いた。研修で興味深かったこと、今後の成長につながりそうなポイント、今後の改善点などを詳細に聞いた。

9 月 23 日 (月)

・教育省訪問 (10:00~11:00)

教育省を訪問し、1 週間の実習の受け入れの御礼と今後の受け入れについてのお願いを行った。

9 月 24 日 (火)

・教育省訪問 (10:00~11:00)

教育省 T シャツの受け取りのため、教育省を訪問した。

[目次へ](#)

プログラム名	Global Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (春)」				
実施日	平成 26 年 2 月 20 日 (木) ~ 3 月 8 日 (土)				
実施先	北マリアナ諸島連邦・Public School System (Northern Marianas High School, Gregorio T. Camacho Elementary School, Tanapag Elementary School, Kagman Elementary School, Garapan Elementary School, San Vicente Elementary School, Dandan Elementary School, Oleai Elementary School, William S. Reyes Elementary School, San Antonio Elementary School, Kobleville Elementary School)				
参加者		大学名	教職員	学生スタッフ	学生
		広島経済大学	1		4
		愛知みずほ大学	2		6
		京都外国語大学	2	4	12
		九州国際大学	1	1	4
		京都文教大学	1		21
		追手門学院大学	2	1	20
		山口大学	1	1	9
		山口学芸大学			4
		佐賀大学			1
		香川大学			2
		松山大学			7
		愛媛大学	3		34
		國學院大學			1
	13 大学 合計 : 145 名		13	7	125
完了報告	<p>平成 26 年 2 月 20 日から 3 月 8 日まで、UNGL 事業「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」のため北マリアナ諸島連邦サイパン島を訪れた。</p> <p>本研修は、UNGL 事業の Global Programs の 1 つとして、英語を用い、価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動を通してリーダーシップを身につけることを目的とするものであった。研修参加学生は、現地の小学校にて自分の得意分野を活かした教育実習を行ったり、同校の教職員等の家でのホームステイ体験を通して、自律性や社会性を養った。</p>				
<p>【プログラムスケジュール】</p> <p>2 / 2 0</p> <p>17:35 奥村 (広島経済大学)、入国。その後、レンタカー借用。 ANAKS (教職員宿泊所) の段取り。</p> <p>2 / 2 1</p> <p>02:20 奥村、迎えに行く。山中・林 (愛媛大学) 入国。 09:30-10:30 スタッフ打ち合わせ 11:00-12:00 現地財界関係者訪問打合せ 13:00-15:00 教育省訪問打合せ 教育実習、ホームステイなどについて最終打ち合わせを行った。 16:00-24:00 スタッフ打ち合わせ 教職員スタッフの担当、細かな日程、調達備品などの確認を行った。</p>					

2 / 2 2	
09:00	備品調達 Wi-Fi ルーター、文房具他について現地の店舗を回り調達を行った。
12:00-15:00	研修先確認
16:00	垣鏑（京都文教大学）到着
18:00-24:00	スタッフ打ち合わせ 学生受け入れに関するミーティングを行った。
2 / 2 3	
01:00-08:00	空港での学生出迎え・対応のためスタッフを配置。 岸岡・田中（京都外国語大学）、秦（愛媛大学）、松岡（山口大学）、中西・渡辺（追手門学院大学）と学生スタッフ 8 名、および参加学生がサイパン空港に到着・同入国。 参加者を大型バス 2 台で一時待機先（スポーツコンプレックス）に輸送。 教職員・学生スタッフは ANAKS に輸送。
10:00-11:30	教職員・学生スタッフミーティング（プログラム確認）
14:00	参加学生の一時的待機先（スポーツコンプレックス）とプログラム開会式会場（ガラパン小学校）にスタッフ配置。
14:30-16:30	同小学校にて開会式、ならびにオリエンテーション。 （プログラム開始）
16:30	各実習先のホストファミリーのもとへ移動開始。 （6 日間のホームステイがスタート）
18:30-24:15	教職員・学生スタッフミーティング
2 / 2 4	
07:00	6 台のレンタカーで各実習先（小・中学校、高等学校）へ担当スタッフが移動。
08:30	各学校での実習開始
14:30-16:00	各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション
19:00-22:00	教職員・学生スタッフミーティング
22:20-24:00	実習先別スタッフミーティング
2 / 2 5	
07:00	6 台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動
08:30	各学校での実習開始
14:30-16:00	各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション
18:00-20:00	教職員・学生スタッフミーティング
21:20-22:00	実習先別スタッフミーティング
22:10-24:00	学生スタッフミーティング
2 / 2 6	
08:30	歴史・文化的遺産（バンザイ・クリフなど）の見学研修。
11:30	同研修 終了
12:30	各実習先にスタッフ配置
13:00-16:00	各実習先にて日本文化紹介行事の準備
19:00-21:00	日本人学生と現地の人々とのスポーツ交流
22:00-24:00	実習先別スタッフミーティング

2 / 27		
07:00	6 台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動。	
08:30	各学校での実習開始	
14:30-16:00	各学校における実習終了後、スタッフによる参加学生へのリフレクション	
22:00-24:00	教職員・学生スタッフミーティング	
2 / 28		
07:00	6 台のレンタカーで各実習先へ担当スタッフが移動。	
08:30	各学校での実習開始 各実習先にて日本文化紹介行事を実施。	
22:30-23:00	教職員・学生スタッフミーティング	
3 / 1		
11:00	学生スタッフによる全体リフレクションならびに閉会式会場の設営 (カノアリゾートホテル)	
14:00-17:00	全体リフレクション・閉会式	
18:00-21:00	教育省・学校関係者との交流会	
3 / 2		
02:00	教職員 (一部) の帰国に対応	
3 / 3		
09:00-11:30	ヒアリング調査 北マリアナ教育省訪問	
13:00-17:00	ヒアリング調査 北マリアナ日本領事館訪問 北マリアナ連邦省訪問 北マリアナ現地財界関係団体訪問	
19:00-22:00	スタッフミーティング	
3 / 4		
9:30-11:00	ヒアリング調査 Gregorio T. Camacho Elementary	
School		
12:30-16:00	ヒアリング調査 Tanapag Elementary School Garapan Elementary School	
19:00-22:00	教職員スタッフミーティング	
3 / 5		
9:30-11:00	ヒアリング調査 Oleai Elementary School	
12:30-16:00	ヒアリング調査 William S. Reyes Elementary School San Antonio Elementary School	

18:00-21:00 次年度に向けたスポーツ交流の
デモンストレーション
23:00-25:00 スタッフミーティング



3 / 6
9:30-11:00 ヒアリング調査
Koblerville Elementary School
12:30-16:00 ヒアリング調査
Dandan Elementary School
San Vicente Elementary School
19:00-22:00 スタッフミーティング

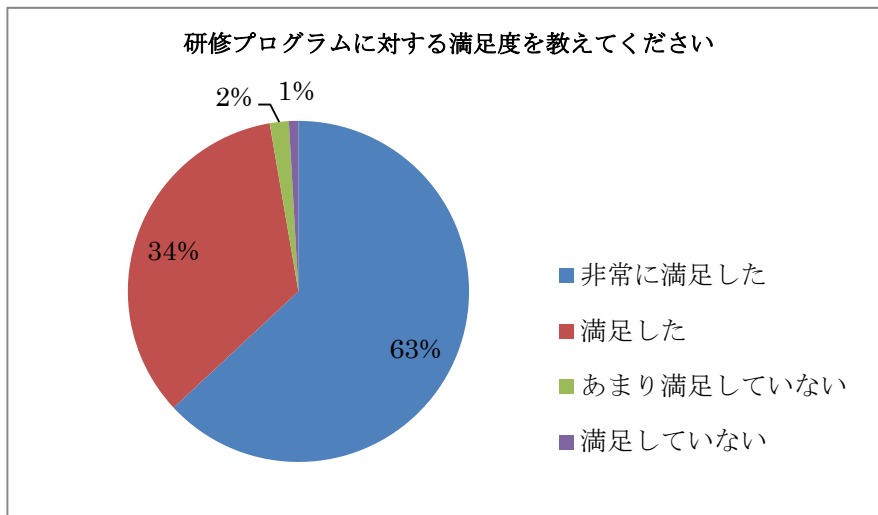


3 / 7
9:30-11:00 ヒアリング調査
Kagman Elementary School
12:30-16:00 ヒアリング調査
Chacha Oceanview Middle School
Kagman High School
18:00-21:00 次年度に向けたスポーツ交流の
デモンストレーション
23:00-24:00 教職員スタッフミーティング

3 / 8
02:00 宿舎出発
04:00 アシアナ便にて関西空港へ出発 (秦・山中)

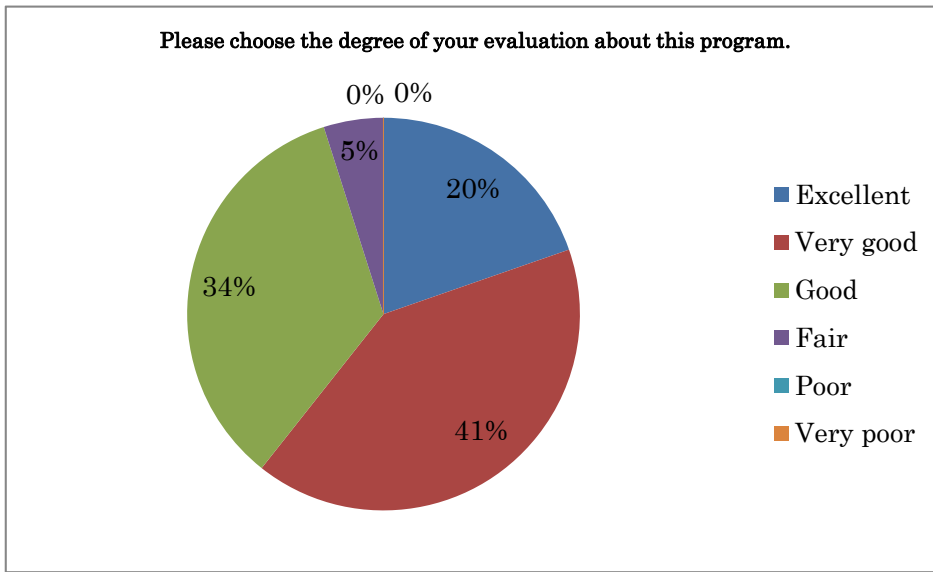
【アンケート結果】

1. 参加学生事後アンケート

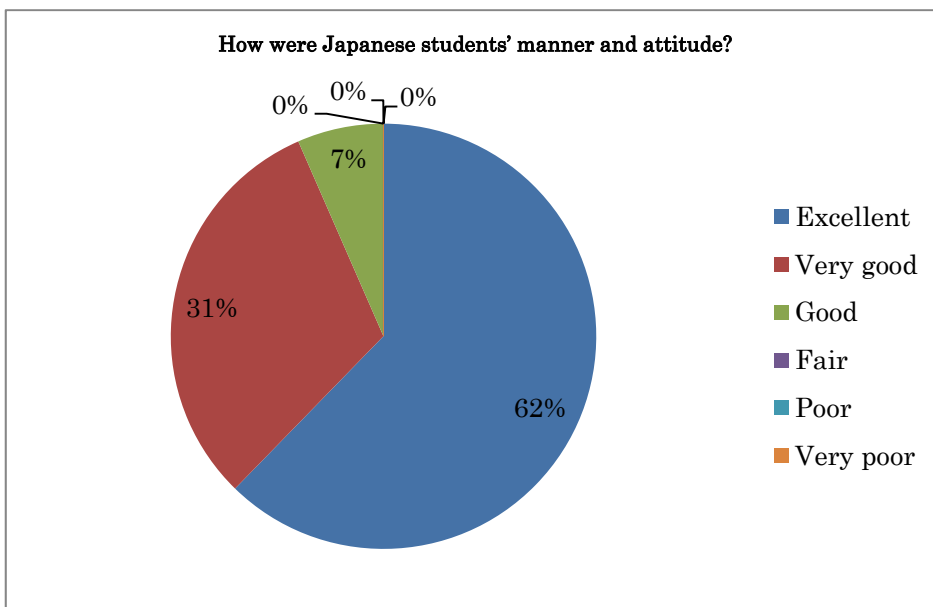


事後アンケートの結果、プログラムに対する参加学生の満足度は 97%超であったことから、彼らのニーズを満たしたプログラムであることを確認できた。

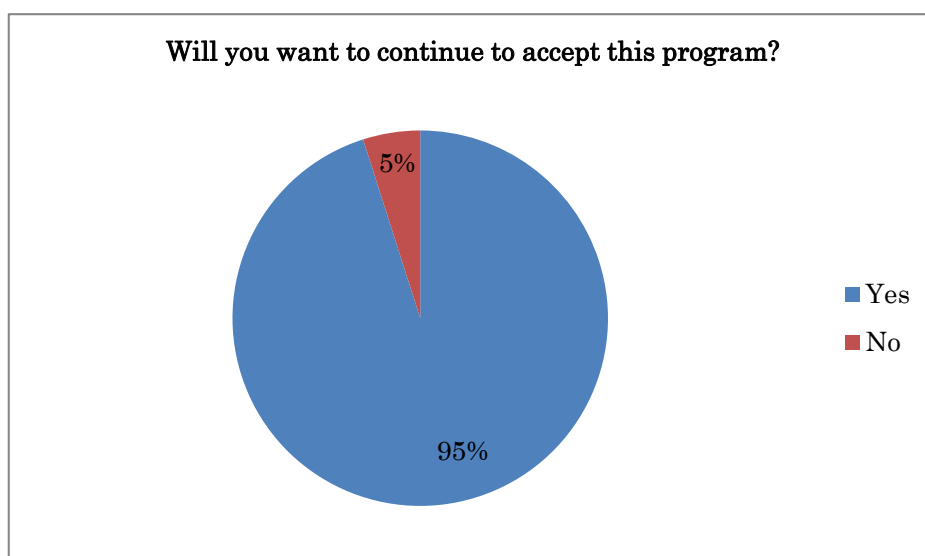
2. 受入先学校の教職員に対するアンケート



受入先となった小・中学校、高校の教職員の回答からは、95%が Good 以上の評価を付したことを確認できた。このことから、当プログラムが受入先にとっても有益であると認識できた。



上記の通り、日本人学生の態度に対しても高い評価を得ることができた。



このプログラムに対するニーズについては回答者の 95%から継続希望という結果が得られた。非常にユニークな取り組みであるため、十分に理解を得られない場合には否定的な回答となって表れることが推測されたが、上記の結果からは現地でも本プログラムに対する非常に高い関心が向けられており、大学側の学習という側面のみならず、地域貢献的な側面も持ち合わせていることが理解できた。

3. 今後の課題

事後の PSS 及び現地学校とのミーティングから、以下のような意見・感想が得られた。項目を以下に示す。

- ・サイパンの生徒たちにとって、異文化と触れ合う貴重な機会でありとても良かった。
- ・日本人学生の取り組みは、総じて積極的なものであり好感が持てた。
- ・大きな学校では、10 人以上の日本人学生を受け入れることが可能だが、規模の小さな学校においては人数の調整が必要である。
- ・日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上。
- ・授業時に用いることのできる非言語コミュニケーション手法の修得。

4. その他

【事後調査のお願い】

Web アンケートを実施し、全学校の関係教職員に対して行った。
非常に高いレスポンスをいただいた。

【契約の締結】

事業実施に関して契約書を交わすことで合意した。内容については、UNGL 側が作成した素案を基に、柔軟な対応が可能となるようにする。

【The Exchange Program For Teachers】

北マリアナ教育省は日本の学校（経営・教育制度など）について興味を持っており、実地調査の実現に向けて調整を行っている。実現の暁には、UNGL 連携・協力校にて対応することを検討している。

[目次へ](#)

プログラム名	Basic Programs 「学生リーダーズ・サマースクール」																																																												
実施日	平成 25 年 9 月 9 日 (月) ~ 11 日 (水)																																																												
実施先	愛媛県松山市中島 中島 B&G 海洋センター及び、姫ヶ浜ビーチ																																																												
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生スタッフ</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>島根大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>高知大学</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>佐賀大学</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>松山大学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>九州国際大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>愛媛県立医療技術大学</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>追手門学院大学</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>広島経済大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>目白大学</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>13 大学合計: 88 名</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	大学名	教職員	学生スタッフ	学生	愛媛大学	6	6	3	島根大学	1		1	高知大学			5	佐賀大学	1		2	山口大学	1	3	4	松山大学	1	1	3	京都外国語大学	2	2	12	京都文教大学	1	2	13	九州国際大学	2		4	愛媛県立医療技術大学	2		4	追手門学院大学			4	広島経済大学			1	目白大学			1	13 大学合計: 88 名	17	14	57
大学名	教職員	学生スタッフ	学生																																																										
愛媛大学	6	6	3																																																										
島根大学	1		1																																																										
高知大学			5																																																										
佐賀大学	1		2																																																										
山口大学	1	3	4																																																										
松山大学	1	1	3																																																										
京都外国語大学	2	2	12																																																										
京都文教大学	1	2	13																																																										
九州国際大学	2		4																																																										
愛媛県立医療技術大学	2		4																																																										
追手門学院大学			4																																																										
広島経済大学			1																																																										
目白大学			1																																																										
13 大学合計: 88 名	17	14	57																																																										
講師	カヌー講師 松山市中島 B&G 海洋センター B&G 海洋性レクリエーション指導員 (AD) 村上 周平																																																												
完了報告	<p>本プログラムは、大学内のゼミ、サークル、市民活動等においてリーダー的役割を担っているか、今後そのような活動に従事することを見据えてリーダーシップに関するスキルを磨きたいと思っている学生を対象として行なう合宿型研修である。</p> <p>参加学生は、5-6 名ごとにグループを形成し、集団の中での自分の役割を認識しながら、変化する状況に対応できる実践的なリーダーシップを身につけるべく、種々のミッションにメンバーと協力して挑戦した。</p> <p>結果として、学生たちはチームビルディングの手法を学んだり、組織・集団との関わりを通じてリーダーシップに必要な態度やスキルを養うことができた。</p>																																																												
<p>【プログラムの到達目標】 野外での活動などを通して以下のことを身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 良好な人間関係に配慮しながら目標達成のためにメンバーを啓発できる。 2) 自己の経験や他社からの評価を通して、自己を客観的に振り返ることができる。 3) チーム活動を通して、新しい自分を発見することができる。 4) チーム内の役割を理解して、状況にふさわしいリーダーシップを発揮することができる。 5) 仲間の成長を促す働きかけをすることができる。 																																																													

【プログラム概要】

5～6名のチームに分かれ、物資や情報が限られた状況において、仲間と協力しながら、予期せぬ様々なミッションに取り組み、最終目標に向かって活動する。その後、それぞれの言動について、指導者からフィードバックを受けるほか、メンバー間で批評的に振り返る。その過程を経て、リーダーシップを養う。

【プログラムの内容】

スケジュール

9/9(月)	8:00	参加者受付開始/教職員スタッフミーティング
	8:30-9:00	あいさつ・説明会
	9:30-11:30	移動(愛媛大学→大浦港)
	12:30-13:00	オープニングセレモニー
	13:00-17:00	アクティビティ1(テント張りや食料収集)
	17:00-20:00	夕食
	20:00-21:00	振り返り
9/10(火)	8:30-10:00	カヌー練習
	10:00-12:00	アクティビティ2(旗・Tシャツプレゼン/カヌーリレー)
	12:00-16:00	アクティビティ3(宝探し)
	17:00-18:00	振り返り
	18:00-20:30	夕食(BBQ)
	20:30-21:30	キャンプファイヤー
9/11(水)	8:00-9:00	片付け/清掃
	9:00-10:00	フリータイム
	10:30-11:00	クロージングセレモニー
	11:45-13:10	移動(大浦港→愛媛大学)
	13:40-16:00	振り返り
	17:00-20:00	懇親会

本プログラムでは、課題や問題をグループ内で解決することを促すために以下の禁止事項を設定した。

- ・班員以外と話さないこと。(スタッフを含む)
- ・他の班から食料や道具をもらわないこと。
- ・地元の中島住民の方とは話さないこと。
- ・自分の班のテントで寝ること。



9月9日(月)

8:30、参加学生は愛媛大学共通講義棟11に集合し、アイスブレイクを行った。本プログラムの説明とグループのメンバー発表と自己紹介等が学生スタッフ主導のもと行われた。また、愛媛大学秦教授から教職員スタッフへ本プログラムの主旨と取り組み方に関する説明がなされた。



その後、愛媛大学から大型バス 2 台で高浜港へ移動し、中島の大浦港までフェリーで向かった。フェリーの中では、各グループの名称を決めるためのワークが行われた。

中島に到着後、B&G 海洋センターで開校式が行われた。次いで、昼食をとった後、研修のための各種アクティビティを行った。

1 日目のアクティビティの狙いは、参加者に数多くの課題を設けることにより体力的・精神的に負荷を与えることで、数あるタスクの中で優先順位を決め、スケジュールを立てる時間管理能力や、グループで協力して課題に対応する力や、集団内での自分の役割を理解し主体的に行動する力を涵養することにあった。

活動内容は以下の 3 つである。

- ① 地図を元に衣食住のための道具を集め、姫が浜ビーチで環境作りを行う。
- ② コンセンサスゲームを行う。
- ③ カヌーレースの準備を行う。(ビーチフラッグ・グループ T シャツの作成)

参加学生はとても日差しが強い中、グループ内で話し合いを行ない、各自の役割を決めて活動していた。しかし、メンバーのほとんどが初対面であることや、他のグループのメンバー、ならびにスタッフとは一切話してはいけないという禁止事項のせいか、グループ内での会話も限定されたものであり、コンフリクトが観察されるグループもあった。



アクティビティの結果、食料が確保できなかつたり、火を起こせないグループが複数あった。教職員・学生スタッフによるリフレクションの際には、なぜこのような状態になったのか、自分の行動や感情について振り返り、改善策をグループ内で話し合うことで、2 日目以降の活動に備えることができた。



9月10日(火)

参加学生は、11:00 からのカヌー大会に出場するための必須課題として設定された「T シャツ・旗の作成・プレゼン」の準備を早朝から自主的に行っていた。

8:30 からは B&G 海洋センターの村上周平指導員によるカヌー講習が行われた。海上での危険を鑑み、真剣且つ厳しい講習が行われた。

11:00 からカヌーレースが行われた。会場設営の都合上、当初準備していた競技ルール・内容が開始直前で変更を余儀なくされたため、学生スタッフには臨機応変な対応が求められた。競技は、まずビーチでカヌーやオールを運ぶレースを行い、その後、カヌーで 30m ほど沖のパイロンを回るという行程で行われた。カヌーの操作を誤り、転覆した者に同じグループのメンバーが大きな声援を送る様子が観察された。





昼食後は、姫が浜ビーチ周辺で各グループに分かれ、問題解決型のアクティビティを行った。その概要は、複数の手がかりをもとに1つの暗号を完成させ、それを解読し、指定の物品を探索して発見することであった。この活動の目的は、目標達成の過程で複数人の協力のもと課題を解決したり、その際に必要な役割分担を行うことにより、グループ内での協調性や各個人の主体性を養うことであった。自転車で中島を半周する者、カヌーで離島まで行く者、暗号を解読する者など、それぞれ個人の得意分野を活かしてグループに貢献する姿が伺えた。また、グループ内での会話も増え、協力している様子が多く見られた。

その後、教職員・学生スタッフ主導のもと、グループごとにリフレクションを行い、活動を通しての気づき・改善点等の共有・フィードバックが行われた。

夕食後にはキャンプファイヤーを囲んで、これまで活動したのとは別のグループの学生や、教職員・学生スタッフらと交流を図り、意見交換を行った。

9月11日(水)

8:00 から清掃・片付けが行われた。

10:30 から姫が浜ビーチで本プログラムの閉会式が行われた。参加学生の代表者が、小立周平氏（姫が浜ビーチ支配人）と村上周平氏（中島B&G海洋センターレクリエーション指導員）に感謝の意を述べた。その後、お二人から本プログラムに対する感想をいただいた。



愛媛大学の到着後、2時間のリフレクションを行った。初めに愛媛大学秦教授がリーダーシップに関するスキルの修得という視点から、本プログラムでの参加学生が変化していった様子について解説がなされた。次いで、グループごとに分かれ、自分自身の気づきや学びについてメンバー同士での共有・フィードバックが行われた。教職員、学生スタッフ、参加学生全てがこの間の活動を振り返ることで、各自の成長に資するプログラムの纏めを行なうことができた。



【アンケート結果】

〈参加学生の自由記述より〉

- ・学生スタッフが本気で向き合ってくれたことがうれしかった。
- ・挫折しそうな場面があるからこそ、あきらめない気持ちや切り替えることの大切さを改めて気付くことができた。
- ・自分たちの悪かった点を重く受け止めて、次に活かしやすかった。
- ・課題が簡単すぎる。
- ・スタッフ間での連絡ミスがあったようなので、連絡の取りあいを確実にすることが大事だと思います。

〈学生スタッフの自由記述より〉

- ・学生スタッフと職員が振り返りを行ったこと。それぞれに学びがあったと思う。
- ・参加学生本人が気づいていない点をフィードバックすることで新たな気づきがあり、向上心へと繋がった。やはり失敗することが大切であると思う。
- ・学生スタッフの力不足で適切なファシリテーションが行えず、活動から学んだ点を日常にうまく落とし込めなかったのが気になった。学生スタッフはリフレクションの進め方について、教職員のアドバイスをもっと自主的に聞くべきだと思う。
- ・スタッフの仕事量が一部の人に集中して、観察時間に差が出ているように感じた。

以上のコメントは、学生スタッフが作成した「学生リーダーズ・サマースクール報告書」の一部を抜粋しております。

[目次へ](#)

プログラム名	Advanced Programs 「リーダーシップ・チャレンジ in 台湾」																							
実施日	平成 25 年 8 月 18 日（日）～8 月 25 日（日）																							
実施先	台湾・国立高雄第一科技大学（台湾）																							
参加者	<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>教職員</th> <th>学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>香川大学</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山口大学</td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>愛媛大学</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>京都外国語大学・短期大学</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>京都文教大学</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6大学 合計:16 名</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>			大学名	教職員	学生	香川大学	1	1	山口大学		5	愛媛大学	2	3	京都外国語大学・短期大学	1	2	京都文教大学		1	6大学 合計:16 名	4	12
大学名	教職員	学生																						
香川大学	1	1																						
山口大学		5																						
愛媛大学	2	3																						
京都外国語大学・短期大学	1	2																						
京都文教大学		1																						
6大学 合計:16 名	4	12																						
完了報告	<p>国際社会で活躍するために求められるリーダーシップや英語でのコミュニケーションスキル、異文化理解力等を養うことを目的とし、台湾・タイ・日本の3ヶ国の学生が集まり7泊8日の共同研修プログラムを行った（於：台湾・国立高雄第一科技大学）。日本からは、UNGL又は自大学のリーダーシップ・プログラムが実施する研修に参加した経験を有する学生、又は今後国内外でリーダーシップを発揮したいと考えており、UNGL連携校の教職員が推薦する学生が参加した。</p>																							
<p>【プログラムの目的】 UNGLのAdvanced Programsとして、複数の国から集まる学生と協働して討議・交流・発表を行い、それらを通してグローバル社会において求められるリーダーシップのスキル・知識・態度等を身につけることを目的とする。特に本研修では、実践的な英語でのコミュニケーションスキルや異文化理解力の涵養をねらいとして、7泊8日のプログラムを実施した。</p> <p>【プログラムの概要】 参加者数 64名 （内訳） 日本： 【学生】5大学12名（香川大学、愛媛大学、山口大学、京都外国語大学、京都文教大学） 【教職員】3大学4名 タイ： 【学生】1大学14名（King Mongkut's University of Technology Thonburi: KMUTT） 【教員】1大学1名 台湾： 【学生】1大学22名（国立高雄第一科技大学：NKFUST） 【学生運営スタッフ】8名 【教職員】学長他4名</p>																								

【スケジュール】		
8/18 (日)	午後	移動 (日本→台湾・高雄) ※一部学生は前日に台北入り。当日、高雄市左営駅にて合流
8/19 (月)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:30-15:20 15:30-17:20 19:10-21:00 21:30-22:30	開会式 アイスブレイク・アクティビティ キャンパスツアー ワークショップ①「Lego Workshop for Creative Cross- Cultural Understanding」(高島) ワークショップ②「Don't miss the bus」(秦) ウェルカムナイト～各国文化紹介～ 振り返り
8/20 (火)	08:10-10:10 10:30-12:00 13:30-15:20 15:30-17:20 19:10-21:00 21:30-22:30	ワークショップ③「Survival on the moon」(林・古島) チームトレーニングワークショップ (Mr. David Huang (台湾外部講師) ケーススタディ (Dr. Chi-Fen Chen, 国立高雄第一科技大学学 部長) ワークショップ④ (Mr. Rom Kenneth B. Sales, KMUTT) ELS/UNGL 説明 (愛媛大学学生、林) タイ大学紹介 (KMUTT 学生) / 台湾大学紹介 (NKFUST 学 振り返り
8/21 (水)	終日 08:10-21:00	フィールド研修 (※台風により GlobalTic Award 延期のためス ジュール変更。) 美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum (傘絵付け体 美濃客家民族村 Meinung Folk Village 国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History 夕食：台南市内
8/22 (木)	終日 08:10-21:00	フィールド研修 鳥山頭水庫 Wusanto Reservoir 国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum 愛河見学 夕食：夜市 Liouhe Tourist Night Market
8/23 (金)	08:10-12:00 13:30-17:20 19:00-21:30 21:45-22:30	ディベート サービスラーニング 学生セミナー (書道体験) 振り返り
8/24 (土)	08:10-11:30 11:30-13:30 15:00-21:00	学習成果発表 (各グループ毎) クロージングセレモニー (修了書授与、集合写真) 終了 自由行動・夕食 (高雄市内)
8/25 (日)	早朝	帰国

詳細な活動内容は、下記のとおり。

8月18日(1日目)

関空出発。一部学生は前日に台湾入り。高雄市左営駅にて当日 17 時頃全員が合流。

高雄空港では、国立高雄第一科技大学 (以下、NKFUST とする) の学生スタッフからの出迎えを受ける。期間中は、NKFUST の学生寮に他の 2 ヶ国の学生と共で生活した。教職員は大学内宿泊施設に滞在した。到着後、夕食を取り、



日本側参加者のみでミーティングを開き、自己紹介をすると共に本研修での各自の目標について共有した。

8月19日(2日目)

リーダーシップ・プログラム初日。開会式では、NKFUST 陳振遠 (Dr. Roger C.Y. Chen) 学長が挨拶。各国担当教職員も登壇し、一人ずつ挨拶の言葉を述べた。NKFUST 学生部部長陳其芬 (Dr. Chi-Fen Emily Chen) からは学生に対し、手の5本指の1本1本を、本プログラムで身につけたいスキルに例え、5C (Can-Do (できると信じる), Communication (人との触れあいを大切にする), Creativity (創造力を発揮する), Caring (他人を気遣う), Collaboration (協働する)) で行動するよう期待すると話があった。

アイスブレイク・アクティビティ (歌・ダンス) ののち、キャンパスツアーを行った。特に学生の勉強スペースは、e-learning のための OA 機器や個人用・グループ用の個室を設ける等、施設設備が充実していた。

午後は、京都外国語大学高島講師によるワークショップ「Lego Workshop for Creative Cross-Cultural Understanding」を開催。ケーススタディを用いてグループワークを行った。グループは、台湾・タイ・日本の学生の混成とした。ケーススタディでは、上司との会議に参加するため何時に出勤するかといった課題が与えられ、グループ内で話し合った。国によって考えに違いがあり、学生達は話し合いを通じて異文化を学び、互いの価値観を共有する場を持つことができた。また、日本・台湾・タイ各国のイメージをレゴブロックで表現しあう等の作業を行った。

次に、愛媛大学秦教授によるワークショップ「Don't miss the bus」を開催。これは個人に与えられた情報を元に、チーム内で情報共有し、最終的な地図を描く作業を行うものである。チームワークの過程の中で、コミュニケーションや作業の現状把握、他のチームメンバーの観察等を通し、チームワークを楽しみつつ自分のリーダーシップの行動の特徴に気づくことを目的とするものであった。

夜にはウェルカムナイトと称して、国際交流会を開催した。民族衣装を着てダンスを披露する等各国文化の紹介を行った。日本からは、日本に関するクイズや京都の伝統文化についての紹介を行った。

夜は、日本側参加者が集まりリフレクションを行った。秦教授からの講評のあと、学生一人一人が初日のプログラムを終えての感想や、自らの研修目標を踏まえての受講姿勢について、主体的・客観的に考える時間を持った。

8月20日(3日目)

午前、愛媛大学林職員と香川大学古島職員によるワークショップ「Survival on the moon」を行った。これは月で遭難し、手元に残った15のアイテムの重要度について個人の意見をチーム内でどのように説明しチーム全体のコンセンサスをとるかを考えることを目的としたシミュレーション型の研修である。論理的にランク付けの理由を説明することと、他者の意見を受け入れ、チーム全体の意見をまとめる能力を必要とした。参加学生全員が自分の意見を表明する状況を作り、限られた時間で個人の積極性や他人の意見を引き出すようチーム構成員が努力できているかどうかで、チームごとに成果のバラツキが見られた。



次に、台湾の外部講師 Mr. David Huang によるチームビルディングのセッションが行われた。血液型や星座、誕生月等の共通点を見つけ合うことで学生同士の一体感を高めた。最後には、各グループの代表1名が目で見えた情報を口頭のみでグループメンバーに説明することで立体模型を作成する作業に取り組んだ。



午後には、国立高雄第一科技大学学生部部長 Dr. Chi-Fen Chen 准教授によるケーススタディ・ワークショップが行なわれた。「コミュニケーション」、「会議」、「金銭」、「タイムマネジメント」、「危機管理」、「課題解決」という6つのテーマが設定され、具体的ケースの解決策をチームで考えるものであった。例えば、「コミュニケーション」というテーマのもとでは、教員や先輩と意見が異なる場合にどうするかについてディスカッションがなされた。



次いで、タイの引率スタッフ Mr. Rom Kenneth B. Sales によるワークショップが行われた。リフレッシュの為の体操の後、グループに分かれ、講師の出すテーマを体で表現するゲームを行った。グループの一体感を高めることを目的としたもので、教職員が審査員となり、テーマに一番近い表現ができているグループにポイントを与えグループ間で競い合うものであった。その後、新聞紙を使い5分間でタワーを作るアクティビティを行った。これは、短い時間でより高くより丈夫で美しいタワーを作成するというもので、学生は自分たちのアイデアを持ち寄り、英語でコミュニケーションしつつ活動した。



その後、各国の大学における各種取り組みの紹介を行った。日本からは愛媛大学生と林職員が、ELS（愛媛大学リーダーズ・スクール）と UNGL 事業の紹介を行った。

夜には、日本側参加者が集まりリフレクションの時間を設けた。2日間のセッションを終え、この間に自分がどのようなアクションを起こしたかについて報告しあった。



8月21日（4日目）

台風のため、当初参加を予定していた Global Tic Award 2013（於：国立台北科技大学）が開催延期となったため、急遽スケジュール変更を行いフィールド研修として、美濃客家文物館 Meinung Hakka Cultural Museum／美濃客家民族村 Meinung Folk Village の見学に赴いた。これは高雄市美濃地区の90%以上を占める民族、客家（Hakka）の伝統的文化や歴史を紹介した施設である。周辺地域とは隔離された地形や

家族理念を重んじる文化であることから、言語、衣食住、音楽等で伝統的・独特な風習や生活スタイルが残されている。学生達は、施設見学後、伝統工芸の一つである油紙傘の絵付け体験を行った。

次いで、国立台湾歴史博物館 National Museum of Taiwan History を訪れた。ここは、先史時代からの民族移住から日本の統治、そして現代社会と台湾の歴史を時系列に展示したミュージアムである。

台風の影響で風雨が激しく、終日、文化施設の見学となったが、学生は台湾やタイの学生と意見・感想を交換しながら台湾の歴史・文化について体験することで、知見を広めることができた。



8月22日 (5日目)

前日同様、フィールド研修を実施した。

はじめに、鳥山頭水庫を訪れた。これは1920年から1930年の10年の歳月を経て竣工されたダムである。建設者は八田与一（はったよいち）という日本の水利技術者で、日本統治時代に台湾に移り住み台湾の農業水利事業に大きな貢献をしたと言われている人物である。ダムの流域面積は約60平方キロメートル、湛水面積は13平方キロメートル。記念公園も併設しておりダム工事中の宿舍等関連施設が再現されている。展示館においては資料や写真が展示されており、学生らは八田与一の生涯から、台湾における我が国のインフラ整備への貢献について学んだ。

次いで、国立科学工芸博物館 National Science and Technology Museum、愛河、Liouhe Tourist Night Market（六合国際観光夜市）を見学し、台湾の歴史や文化に触れる機会を持った。2日間のフィールド研修を通じて、台湾、タイ、日本の学生が終始話し合う姿が見られ、参加学生にとっては大変有益な経験となったと思われる。



8月23日 (6日目)



午前の最初のセッションとして、グループ対抗のディベートを行った。学生は数日前からこのセッションに向けて自主的な議論・準備をしてきた。課題は **Global/Social Issues** に関するもので、①「原発の新規建築について賛成か反対か」、②「大学の国際化のため学生受入れと送り出し、どちらに重点を置くか」③「スポーツ関連企業において獲得した5,000万円の利益を現職員に臨時手当として支給するか、施設設備費に投資するか」④「市長である貴方は町

の空き地にショッピングモールを建てるか公園を造るか」という 4 点が設定された。ディスカッションは、各グループの代表が討論者として登壇して展開された。はじめに登壇した学生が 3 分ずつそれぞれの主張を述べ、その後、質疑応答の時間を設けた。日本人学生の殆どがグループ代表者として登壇し、大勢の前で意見を述べるのみならず、予期せぬ質問に対して機転を利かせつつ回答する経験を持たたことは今後の自信につながったと考えられる。

午後には、まずトイレ掃除を行った。学生たちは、素手でスポンジを持ち、便器を洗うことに最初は戸惑いがあったようだが、この習慣が日本の統治時代に台湾にもたらされたものであることを聞くと、積極的にこれに取り組むようになった。その後、台湾の学生司会による書道体験のセッションを行った。

全てのセッション後、日本側参加者が集まりリフレクションを行った。プログラムへの参加姿勢や意識の違いによって、学生間に成果や自己満足度、自己評価・他者からの評価に差異が生じていたため、改めて当初設定した各自の目標を振り返り、その実現に向かってどのようにアクションを起こすかを発表しあった。



8 月 24 日 (7 日目：プログラム最終日)

グループ毎に研修成果の発表を行った。パワーポイントや模造紙を利用し、プログラム全体の総括や各個人の感想について報告した。

次いで、閉会式を行った。各国の教職員からコメントがあった後、参加学生に修了証が授与された。

その後、日本からの参加学生は一堂に会してリフレクションを行った。プログラム全体を通しての各人の感想と、ここで得た経験を今後どのように活かしていくかについて、学生・教職員間で共有した。

(この後、学生 2 名が帰国)。



8 月 25 日 (8 日目)

早朝、バスにて大学を出発。高雄空港からは学生・教職員 7 名が、台北・桃園空港からは学生 6 名がそれぞれ帰国した。

まとめ

今回のプログラムは、ホスト校・高雄第一科技大学の教職員・学生スタッフの多大なる配慮により、大変充実したものとなった。ワークショップ、議論・討論、文化・伝統芸能紹介、大学紹介、施設見学、台湾の歴史・科学等を紹介する施設の見学等、多岐にわたる内容を提供できた。学生らは、プログラム参加に際し、あらゆる場面で成長したいと行動する姿勢で臨み、短期間で成長する姿が観察された。

参考)

- facebook ページ「2013 student Leadership Camp in NKFUST」
<https://www.facebook.com/groups/2013leadershipcamp/>
- プログラムの様子 (Youtube 動画。クロージングセレモニーにて使用)
http://youtube.com/watch?feature=share&v=YJea8YEAQ6s&desktop_uri=%2Fwatch%3Fv%3DYJea8YEAQ6s%26feature%3Dshare
- 台湾国内における報道 (台湾中央通信社)
http://www.cna.com.tw/postwrite/Detail/132353.aspx#.Uil_OxiCiM9

[目次へ](#)

大学間連携共同教育推進事業

西日本学生リーダーズ・スクール（U N G L）ホームページのご案内

U N G L の活動に関する最新の情報は、下記ホームページからもご確認いただくことができます。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.ungl.jp/>

2014 年 10 月 29 日 発行

2014 年 11 月 13 日 一部修正